東近江市民クラブ

関係人口の創出を

森　鉄兵

Q 龍谷大学との連携協定について、
①これまでの取り組みと成果は。
②フットパスをはじめとする若者主体の取り組みについて、今後取り組みをさらに継続的に展開し、地域の未来につなげていくことが必要と考えるが見解は。

A ①インターンシップ実習生については、平成28年度から合計11名の学生を受け入れ、公務職場がどのようなものかを知り、市役所での業務を体験してもらうことで、学生に学びの場の提供ができました。

フットパスの取り組みでは、市外に住む若者たちが本市を訪れ、地域の活性化、地域資源の再評価・磨き上げにつながりました。

100年の森づくり地域ワークショップの取り組みでは、里山学の視点から助言が得られたことや大学の研究推進なども図れたことであると考えています。

②若者が本市を訪れ、さまざまな取り組みが展開され、地域づくりに関わることで関係人口の増加につながり、さらに深く地域づくりに関わることで地域の活性化、にぎわいの創出とともに、定住・移住にもつながるものと考えています。

また、こうした取り組みを通じて若者目線での本市の魅力発信にも期待するところであり、今後も継続して若者主体の取り組みを積極的に支援していく必要があると考えています。

フットパスイベント

東近江市民クラブ

安心して学べる教育環境を

澤居　寛明

Q 猛暑の中で登下校する児童や屋外で水遊びをする園児の安全管理が難しい。子どもの暑熱対策について、
①令和7年度に実施した暑さ対策とその予算額は。
②令和8年度に実施予定の暑さ対策は。

A ①中学校体育館空調整備工事設計監理業務委託料として2校分660万円、幼児施設の遮光ネット、パラソルなどの購入に約47万円を執行しました。

②小中学校では、家庭との連携をより密にし、十分な飲み物の持参、日傘の使用など児童生徒の健康管理に一層努めていただきたいと考えています。また、幼児施設では、暑さ指数を注視しながら、空調などで適切に環境を整えたいと考えています。

Q 教育現場での盗撮報道が相次いでいるが、本市の外部トイレの設置状況について、
①外部トイレの数と、その内、休日・夜間などの未利用時間帯に施錠ができる施設数は。
②外部トイレに鍵付きの扉設置と洋式化を行う予定は。

A ①小中学校の外部トイレは、31校中30カ所あり、施錠できる施設は19カ所です。

②校舎や体育館などに付属しているトイレを優先して改修してきましたが、今後は、単独で建つ外部トイレの改修を順次進めていく予定です。

改修が望まれる学校の外部トイレ

東近江市民クラブ

地域福祉の担い手の確保を

青山　孝司

Q 民生委員・児童委員について、
①委員一人当たりの担当世帯数は。
②活動の中での問題点、課題は。
③制度を含めた今後の在り方についての見解は。

A ①約160世帯です。

②近年、複雑化・複合化した問題を抱える世帯が増加しており、地域福祉の担い手である民生委員・児童委員活動への負担が増していることや地域のつながりが薄れ、困りごとなどの情報が入りにくくなっていることも活動を行う上での課題となっています。さらに、定年延長や地域のつながりの希薄化を理由に、民生委員・児童委員の成り手が不足していることは深刻な問題であると考えています。

③活動の負担軽減を図ることで、地域における身近な相談役として、これからも活動を続けていただけるように、民生委員・児童委員協力員制度を導入することとしています。

Q 今後の環境こだわり農業推進に対する考えは。

A 地球温暖化防止や生物多様性の保全の観点から本市の環境農業の柱として位置付けており、農家の理解のもとオーガニックビレッジの取り組みと合わせて、より一層の推進を図っていきたいと考えています。

東近江市民クラブ

行政の責任で戦争遺跡を残せ

和田　喜藏

Q 戦争遺跡である布引丘陵の掩体壕（えんたいごう）が、何も手を付けられずに放置されている。管理は行政の責務だと思うが、見解は。

A 布引丘陵にある掩体壕は、旧陸軍八日市飛行場の関連施設として、戦争の実態を伝える貴重な遺跡であると認識しています。平成19年から21年に実施した測量調査の結果、17基の掩体が確認され、そのうちコンクリート製の掩体2基については、およそ間口25メートル、奥行き22メートルと大規模なものです。

戦争末期の資材が乏しい時期に築造されたことから、鉄筋が細く本数も少ないため、屋根の一部が崩落している箇所があるなど、戦後80年が経過し、ますます老朽化が進行しています。市としては掩体壕を戦争遺跡として保存していきたいと考えており、今後、土地所有者や関係機関と協議しながら保存に向けた調査を進めていきます。

Q 横断歩道手前に、注意の印である黄色線の路面標示を取り入れることについて、考えは。

A 本市では、令和4年度から学校付近の横断歩道や交通事故が多発する交差点などにおいて、車線中央部に幅60センチメートル、長さ30メートルの黄色のラインを引いています。現在、市道では5カ所に設置しており、効果を検証しながら、今後も必要に応じて設置していきます。

布引丘陵にある掩体壕